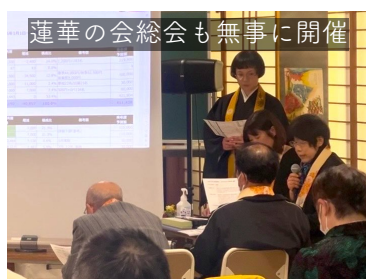


永代経 / 茶話会 / 彼岸会 / 門徒総会 等ご報告、W降誕会 / 茶話会 / 新講中説明会 等ご案内

桜花爛漫の春が、筈へと引き継がれていきます。2月、前住職のご命日(14日)に永代経法要が勤修されました。美味しい御斎に舌鼓を打った後は、佐々木高彰師(山鹿市常法寺)の節談説教がときに明るい笑顔を、ときにしみじみとした歌声を誘います。続く3月、春季彼岸会では坊守の友人でもあるご講師、はがみちこ師(岡山県正覚寺)をお迎えし、美術の専門家ならではの切り口で「利他」についてお話をお聴聞しました。恒例となっている蓮華の会お手製の牡丹餅がつくられる一方、女性陣の昼食には日頃の感謝を込めた男性役員と住職を中心にスパイスカレーが用意され、みんなていただく楽しいひと時を過ごしました。茶話会では、開催中の「ご縁の天井絵展」解説ツアー、ご法話と続き、明行寺のめもとユニット「遇々」によるミニライブも実施。お蔭様の年度末には、蓮華の会総会・門徒総会ともに滞りなく終了いたしました(詳細は裏面、活動・決算報告は配布済の別紙参照)。後日TNCさまが取材くださり、4月16日午前10時にテレビ西日本「ももち浜ストア」にて紹介される予定です。ご都合が許せばぜひご覧くださいませ。

新年度は、プロの音楽家による演奏会に合わせて開催されるご法座「なんもない夜座」の#7に始まり、茶話会、花まつり・W降誕会、新講中・役員説明会、他寺院での法要等も含めて行事予定が目白押しです。下記一覧をご確認のうえ、日毎に姿を変えるご本堂の大屋根の確認も兼ねて、ぜひお参りください。



[4～5月の行事予定]

- 4月 4日(金) 19時半～ なんもない夜座 #7 @明行寺 ※サントゥールとタブラの北インド音楽演奏会、事前申込制
- 4月 16日(水) 14時～ お取寄せスイーツ茶話会「喫茶去明行寺」vol.36 @明行寺 ※お申込期限: 4/15(火)
- 4月 19日(土) 14時～ 下川東組会計監査・法中会 @傳敬寺 ※門徒会長ご出席
- 4月 25日(金) 15時～ 第15世坊守 三回忌法要 @明行寺 ※親戚一同にてお勤めする予定です
- 4月 26(土)・27日(日) 13時～ 元中通組蠟燭講 宗祖降誕会法要 @西光寺 ※どなた様もぜひお参りください
- 4月 29日(祝・火) 8時～ 除草作業 @明行寺 (ご担当: 川床・上内・南関・下伍位軒)
- 13時半～ 蓮華の会役員会議 @明行寺 ※蓮華の会役員・アドバイザーが対象です
- 5月 2日(金) 11時～ 花まつり・W降誕会法要 @明行寺 (おまかない担当: 赤山・四ヶ中原・山川中尾)
- 5月 8日(木) 14時～ 下川東組会 @光徳寺 ※門徒会長ご出席
- 5月 10日(土) 13時半～ 元中通組蠟燭講 御消息披露法要 @西楽寺 ※どなた様もぜひお参りください
- 5月 11日(日) 16時～ 新講中・役員説明会 @明行寺 ※門徒会役員・蓮華の会役員・アドバイザー・講中・希望者が対象です
- 5月 12日(月) 14時～ 下川東組仏教婦人会役員会 @傳敬寺 ※蓮華の会役員が対象です
- 5月 17日(土) 8時半～ 下川東組仏教若婦人会研修会 @西楽寺 ※蓮華の会の皆さまぜひお参りください
- 5月 18日(日) 14時～ お取寄せスイーツ茶話会「喫茶去明行寺」vol.37 @明行寺 ※お申込期限: 5/11(日)

[住職の出張予定] 4/18～20 お取次、研修会 @東京、5/17 お取次 @光源寺(みやま市)、5/23 お取次 @西宗寺(朝倉市)
5/27 青年布教使の会総会 @福岡教堂(福岡)

「令和6年度 門徒総会・蓮華の会総会」が無事に開催されました！

3月、年度の締め括りに門徒総会が開催されました。当日は大屋根の解体工事の中休みで、天井から上がすっぽりなくなった珍しい姿のご本堂がお出迎え。松尾眞吾会長のご挨拶に始まり、門徒会費の使途である門徒会計と、1年間の行事のご報告に続き、改修工事の現状と今後の動きについてご提案を行いました。施工を請け負ってくださる田中建設さま、天井絵等をお願いする千々和仏具工芸社さまがご同席くださる中、ご懇志の収納状況や、任意の特別懇志についてのお話も(詳細別紙)。あわせて工事の過程で間近に目にする事となった古い天井絵や、ご本尊の足元から見つかった謎の獅子像についての出来事を共有し、受け継がれてきた変わらないみ教えに「今」出遇う場であるお寺と、それをまた受け継いでいくわたしたちはその「今」にどう向き合い、変わり続ける環境や自分自身についてどう判断し行動するのか、問いの光に照らされる機会となりました。



また、春季彼岸会の前には蓮華の会総会も開催されました。門徒会と同じく、会費の使途のご報告と、事前に行われた役員会議の議事録のご報告とあわせ、会員の募集と主催行事やご法座へのお参りを促進すべく、明行寺のパフレットを作成する旨などを提案しました。普段からお寺に足を運んでくださる方も、おまかないなどに初めて参加くださる方も、お寺参りを意外と面白いと感じてくださる方も、逆にやっぱりつまらないと思われる方も、おそろくさまざまおられるなかで、「今」どんなお寺であるのか、その一員であるわたしたちはどのように振舞う自分自身であるのか、阿弥陀如来さまに向かって考えさせてくださることでした。あらためて、総会は得難いご縁です。有難うございました。 称名



コ
ラ
ム

「『世襲制』 寺は一体 誰のもの」・・・2/3

寺を継ぐということ

寺の長男である夫から「女性はお寺を継げないんだ」と聞いたのは、今から三十年以上前のことでした。仏教を学び始めた頃だったので、とてもビックリしました。阿弥陀さまの前ではすべての人が平等であり、それを気付かせてくれるのがお念仏のはたらきだと思っていたので、性差によって排除されるなんて考えてもみなかったのです。長女、次女を出産した私にとって、女子が寺に生きるとはどういうことなのかがずっと課題になってきました。

その後、女性に対するある差別発言をきっかけに、この問題がにわかに議論されるようになりました。「男子がいない場合」という条件付きで女性が住職に就任できるようになったのが1991年(注: 真宗大谷派の場合。浄土真宗本願寺派で女性の住職が認められたのは2006年)。性別や生まれた順番も問われなくなったのが1996年のことです。ではそれで一件落着かというところではないから、今回の句「世襲制 寺は一体 誰のもの」が作られたのだと思います。この句の中で私が一番心に響くのは「誰のもの」という言葉です。お寺は念仏の道場として開かれているはずなのに、それとは反対に閉じられているのではないか、私たちが本当に継ぐべきものは何なのか、わかったつもりで日々を過ごしてはいませんかという厳しい問いかけがあるからです。

>>続きは次号、6月の「明行寺新聞 vol.45」にて！



藤場芳子師

「女(ひと)と男(ひと)のナムアミダブツ」

1954年生まれ。真宗大谷派常讃寺副住職。解放運動推進本部「女性室」元スタッフ。同朋会館教導。真宗本願寺教化教導。坊守(智美)が仏教とジェンダーについて学ばなかくご縁を賜り、ご著作から明行寺新聞のコラムに掲載している。



明行寺HP



Instagramで
お朝勤配信
(毎朝6時半～)



う
た
う
明行寺

公式LINE



ご連絡
お問い合わせ等
お気軽に